

名古屋大学 環境医学研究所 市民公開講座 2015

「脈の乱れから脳卒中？ ～心房細動の最前線～」

日時：平成 27 年 10 月 17 日 13:00 ～ 16:30

場所：名古屋大学野依記念学術交流館 2 階

プログラム

13:00-13:05 開会の辞 名古屋大学 環境医学研究所 所長 澤田誠  
進行 環境医学研究所 心・血管分野 教授 神谷香一郎

13:05-13:20 「脳卒中と不整脈特に心房細動との関係（本講座のオリエンテーション）」

名古屋大学環境医学研究所 教授 神谷香一郎

心房細動という不整脈は、動悸や時に失神の原因にもなります。まったく症状のないことも多く、特に危険な不整脈ではありません。ところが心房細動で問題となるのは、心臓の内部特に左心房で血の固まり（血栓）ができやすく、そこからはがれた血栓が脳動脈に流れて脳梗塞になる危険性が高いことです。今回の市民公開講座では、この心房細動による心原性脳塞栓症の危険性とその予防、心房細動の発生機序と治療法の実際について、現場の最前線で活躍されている先生方を講師にお招きし皆様に解説します。



13:20-14:00 「心房細動から脳卒中：寝たきりを防ぐために」

弘前大学循環器腎臓内科学講座 准教授 富田泰史

心房細動があることに気づいている方、気づいていない方、いずれの方にとっても心房細動の最も大きな問題は、脳梗塞を引き起こすことです。特に心房細動が原因となる脳梗塞、すなわち心原性脳塞栓は他の脳梗塞と比較して重症になりやすく、寝たきりとなる割合が高いことが示されています。では、どのような危険因子を有する心房細動患者が、心原性脳塞栓を発症しやすいのか、どのようにすれば、心原性脳塞栓による寝たきりを防ぐことができるのかについて、本講演でわかりやすく解説致します。



14:00-14:20 「心房細動が起きるしくみ」

名古屋大学環境医学研究所 准教授 本荘晴朗

心臓は 1 日に 10 万回ほど拍動を繰り返しており、この心臓拍動のリズムが異常に速くなったり、遅くなったり、不規則になるのが「不整脈」です。「心房細動」は不整脈の一種で、「心房」と呼ばれる心臓の部屋が細かく震えたように収縮する状態です。心筋細胞の収縮は電気信号によって制御されています。私達は、この電気信号が心臓内を伝わっていく様子を特殊な色素を用いて目に見えるようにし、その異常（不整脈）について研究しています。この講演では、心房細動が起きるしくみをわかりやすく解説します。



14:20-14:35 質疑応答 — 休憩 15分 —

14:50-15:30 「心房細動治療法その1：薬物療法（抗凝固薬、抗不整脈薬等）」について

藤田保健衛生大学循環器内科 教授 渡邊英一

高齢化社会を迎えたわが国では、心房細動の患者さんが増えてきました。心電図で診断されたら以下の3ステップの治療が行われます。①発作時の動悸や息切れなどを強く感じる場合には、それを抑える薬を使用します。しかし、現在はカテーテルアブレーションのほうが効果とリスクの点で薬に勝るとされます。②脳梗塞の予防：脳梗塞になりそうな危険因子（高血圧、糖尿病、心不全、年齢75歳以上、脳梗塞の既往）が2つ以上ある場合には血液が固まらないようサラサラにするために、ワルファリン、または新しい系統の薬（リクシアナ、プラザキサ、エリキュース、イグザレルトなど）を飲みます。③心不全：心臓の力が落ちている状態です。この場合は利尿薬や血管拡張薬を使用します。心房細動は直接死に至ることはありませんが、症状がないからといって放置せずに治療を受けることが必要です。



15:30-16:10 「心房細動治療法その2：カテーテルアブレーションについて」

名古屋大学先端循環器治療学寄附講座 助教 柳澤哲

心房細動に対するカテーテルアブレーション治療は、近年飛躍的に進歩を遂げている治療法です。カテーテルという細い管を血管の中を通して心臓まで入れていき、心臓内部の不整脈の原因となっている場所を焼灼し不整脈の源を取り除く方法です。この治療法によって、従来の薬物では治りにくかった心房細動にも効果があり、場合によっては薬を飲まなくてもよくなるのが可能です。今回の講演では、カテーテルアブレーション治療法についてわかりやすく解説します。また、名古屋大学医学部附属病院での実際の治療や、最新の治療法についても紹介します。



16:10-16:30 質疑応答

問い合わせ先：名古屋大学 研究所総務課 TEL: 052-789-3886